

平成 25 年度

(2013 年度)

標準化活動報告書

抜粋版

抜粋版

平成 26 年 4 月

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
(JBMIA)

標準化センター

はじめに

標準化センターで取りまとめをしました、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（以下、JB Mia という。）の標準化活動に関する「平成 25 年度（2013 年度）標準化活動報告書」を発行いたします。

昨平成 25 年度は、JB Mia の協会改革活動が進む中、標準化センターでは、協会改革から全委員会・部会への要請である活動効率化策の検討に加え、活動全般の見直しを実施いたしました。具体的には、標準化会議を中心に、以前から活動しているアクセシビリティ、ユーザーインターフェイスデザイン、カラーマネージメントの四つの標準化プロジェクト、JBMS（協会標準）の維持管理及び JIS 原案作成等の活動に加えて、「実施すべき新規プロジェクトは何か、会員各社での標準化活動に対する有効な支援策は何か、」などについて検討をいたしました。検討はまだ道半ばであり、平成 26 年度も引き続き検討を継続し、センターの活動全般について改善を加える所存です。

本報告書をご高覧いただき、標準化センターに対して皆様の忌憚のないご意見をお伺いできますれば幸いです。

標準化センター センター長
栗原 克己

■ 目次 ■

1	標準化活動概況	4
1.1	標準化センター	4
1.2	JIS 原案作成委員会	5
2	標準化センター	6
2.1	標準化センター関係委員一覧	6
2.2	標準化センター幹事会	11
2.3	JBMS 推進小委員会	13
2.4	ユーザーインターフェイスデザイン・プロジェクト (UIDP)	14
2.5	アクセシビリティ・プロジェクト (ACPJ)	17
2.6	カラーマネジメント・プロジェクト (CMP)	19
3	JIS 原案作成委員会	20
4	部会及び委員会の標準化活動	22
4.1	複写機・複合機部会	22
4.2	ページプリンタ部会	27
4.3	カード及びカードシステム部会	27
4.4	データプロジェクター部会	28
4.5	環境委員会	29
4.5.1	環境配慮小委員会／騒音規格検討WG	29
4.5.2	リサイクル小委員会	30
	附属書 A JBMS/JIS 実績表	31
	附属書 B 2013 年度 JBMS 5 年見直し結果	36

1 標準化活動概況

1.1 標準化センター

標準化センター所属の各プロジェクト及び小委員会での、平成 25 年度の活動成果概要を次に示す。

(1) 幹事会の主な活動

- ・ 協会改革の要請による標準化センター活動全般の効率化策（工数約 30%減）を検討し、9 月より実施を開始した。
- ・ 平成 23 年度～平成 24 年度に亘って実施した標準に関する講演会の講師によって執筆された論文の未掲載 3 論文を JBMIA レポートの 2013 年の各号に掲載し、一連の連載を終了した。
- ・ 標準化センターの戦略検討の一環として、活動に関する標準化会議委員へのアンケートを実施した。センター活動の在り方については継続検討中である。
- ・ 標準化センター活動の効率化策による体制変更、等の諸活動に関連して、標準化センターの 5 規則の改正を行った。

(2) JBMS 推進小委員会の主な活動

- ・ 平成 25 年度の 5 年定期見直しを、JBMS 2 件、JBMIA-TR 2 件を対象として実施した。
- ・ JBMS 6 件、JBMIA-TR 2 件の制定・改正原案のエディット作業を実施した。この内、JBMS 6 件、JBMIA-TR 1 件の計 7 件を発行した。
- ・ JBMS/JBMIA-TR の英語化対応推進として、英語化対応テンプレートの適用徹底を図った。
- ・ JBMS/TR 原案のエディット作業の効率化策として進めていた「JIS・JBMS 用語自動チェックツール」の開発を終了し、2014 年 1 月より実使用を開始した。

(3) ユーザーインターフェイスデザイン・プロジェクト (UIDP) の主な活動

- ・ ステアリングチームで、各社製品に共通した GUI 構成要素（操作作法、アイコン、用語、等）について調査を実施し、比較一覧表を作成した。
- ・ ユーザーインターフェイス用語ワーキンググループでは、UI 用語作成時の配慮事項をまとめた JBMIA-TR-5（UI 用語作成ガイドライン）を、より多くの製品開発で活用を図ることを目的に、JBMS 化活動を行い発行した。又、TC シンポジウム（8/28、主催：一般財団法人コミュニケーター協会）で、本 WG の活動を紹介した。
- ・ ビジュアルランゲージワーキンググループでは、複写機・複合機で使用頻度や必要性の高い図記号を抽出し、国際標準とする活動を推進した。3 月末時点で、32 図記号が IEC 図記号として登録された。新規図記号の検討では、候補の絞込みが終了し、それらに対する各社の意見収集や代替図記号候補の検討を行なっている。又、JEITA の図記号関連委員会と合同会議を 3 月に開催し意見交換と関連情報の共有を行った。

(4) アクセシビリティ・プロジェクト (ACPJ) に関する主な活動

- ・ ISO/IEC 10779 (事務機器のアクセシビリティガイドライン) 改定活動として、2013年6月開催の JTC 1/SC28 (事務機器) ウイーン総会において、Ad-Hoc G の活動報告を行い、活動の継続が決議された。
- ・ EU 指令 Mandate376 の EN 301 549 原案ドラフト (v1.0.2) の規定内容の確認を実施。加えて2月に制定、発行された EN、TR 計3点の内容分析に着手した。
- ・ ISO/IEC 10779 を中国の国家標準化する活動が進んでおり、この標準案に対する、中国内の障がい者団体の有識者による意見書へのコメント募集があり、ACPJ コメントをまとめて提出した。
- ・ ISO TC159 (人間工学) 国内審議団体ですすめている国際規格及び JIS 開発活動に対して、JBMIA としてのコメントをインプットした。
- ・ JBMS-71 (報知音) で定めた報知音の規定に関して、うるさい (特に弱注意音) との声があり、現状把握のアンケートから今後の進め方を検討している。

(5) カラーマネジメント・プロジェクト (CMP) の主な活動

- ・ 一般オフィスにおけるビジネス文書について、ディスプレイとプリントの色との観察環境、オフィスプリンタ色空間、色域マッピングアルゴリズム、オフィスプリンタ固有の課題 (様々な用紙や色材を前提としたカラーマネジメント) 等を取り上げ、その現状把握や技術レポート又は規格化の検討を行った。
- ・ ISO/IEC JTC 1/SC 28 国内委員会への活動状況報告と課題対応、IEC/TC 100 (オーディオ・ビデオ・マルチメディア) 国内委員会からの課題検討要請への対応を行っている。また、ISO、IEC、CIE、ICC などの国内外関連団体におけるカラーマネジメント関連の活動について、情報収集や意見提案などを行った。
- ・ 種々のデジタルプリントに幅広く適用できる画像保存性の国際規格策定活動が進捗しており、画像保存性 WG では写真感光材料工業会 [ISO/TC42 (写真) 国内審議団体] との連携を図ると共に、国際会議にも代表を送り、JBMIA で集約した意見を規格に反映させる活動を継続実施した。

1.2 JIS 原案作成委員会

- ・ 今年度は JBMIA が原案作成団体となって活動した JIS 原案作成の成果はなし。
- ・ 平成 25 年度 JIS 5 年定期見直しとして、7 規格の精査を関係者の下で行い、対応国際規格等の状況を確認した。

以上